

日本の伝統演劇における〈語り〉1：狂言の場合

この回では、能の『屋島』の「間」として語られる「奈須与市語」も取り上げますが、それは「語り」の原点とも言うべき「戦物語」である〈平曲〉の主題である『平家物語』を素材にしているからです。この「語り」は、前回の春秋座能狂言「東西狂言 華の競演」の舞台で、万作先生ご自身に語っていただきましたから、ご覧になった方も多と思いますが、今回は万作先生のお弟子に語っていただき、伝統演劇における伝承の実態にも立ち会っていただきたいと思います。

2013年9月6日(金) 18:30開演 (18:00開場)

入場無料・申込不要

ゲスト講師：野村万作 (人間国宝・和泉流狂言方)

モデレーター：渡邊守章

演目：『釣狐』（「語り」）野村万作

『奈須与市語』深田博治

トーク：野村万作、渡邊守章

近代日本における〈声〉と〈語り〉1：「言葉」の自立 — 音曲との関係 — 一葉の位置

詩人・小説家で表象文化論研究者でもある芥川賞作家松浦寿輝氏をメイン・ゲストにお招きして、本研究の〈問題形成〉を纏めていただき、明治の変革期を生きた天才の作家樋口一葉を取り上げ、その朗読を後藤加代さんをお願いする予定です。

2013年9月11日(水) 18:30開演 (18:00開場)

入場無料・申込不要

ゲスト講師：松浦寿輝 (作家、詩人、文学研究) / 浅田彰 (京都造形芸術大学大学院芸術研究センター所長/批評家)

朗読：後藤加代 (俳優)

モデレーター：渡邊守章

日本の伝統演劇における〈語り〉2：能の場合

伝統演劇における『語り』を論じようとするならば、どうしても能と浄瑠璃を論じないわけには行きません。このシリーズでは第三回として、音曲とドラマを結びつけた能を取り上げ、観世鏡之丞師と片山九郎右衛門師に、能における「語り」の代表的な局面を語っていただく予定です。

2013年10月4日(金) 18:30開演 (18:00開場)

入場無料・申込不要

ゲスト講師：観世鏡之丞 (観世流シテ方) / 片山九郎右衛門 (観世流シテ方)

竹本幹夫 (早稲田大学文学学術院教授/能楽研究)

朗読：後藤加代 (俳優)

モデレーター：渡邊守章

第四回以降は、明治から昭和までの、近代日本語における「語り」の可能性を、松浦寿輝氏を中心に、論じていきたいと考えています。なおこの研究会は、春秋座を用いた実験的な研究会ということで、入場は無料で、申し込みも不要です。皆様のご来場をお待ちしています。